

＜有識者 下呂市健康福祉部長 二村 昭司 氏＞

(1) 下呂温泉病院の使命について

- ・ 下呂温泉病院の今後について、県でどのように捉えているかを心配している。県も下呂市もそうだが、採算性のことも当然考えないといけないが、5圏域のうちの1つを担う県立病院として、必要な施設であるということを県としても強く認識してもらいたいと思う。対象者、人口が少ないが、圏域も広く、やはり拠点として絶対に必要ではないかということと思う。

(2) 下呂温泉病院の役割について

- ・ 下呂温泉病院にせよ市立金山病院にせよ、病院勤務医は不足しているが、下呂市内にも開業医は結構みえる。二次医療、高度急性期医療を担うものがないと、診療所も維持できない。開業医がやっていけるのも、下呂温泉病院があるからではないかと思っている。医師会は、連携をとり合って、月1～2回のペースで打合せを行っている。もう一つ、小坂、上原、中原、馬瀬のへき地診療所は、特に馬瀬の診療所の医師は高齢になっており心配している、下呂温泉病院にあっては、何かあったときに即対応してもらえるような体制をとっていければと思っている。

(3) 下呂温泉病院の今後のあり方について

- ・ 採算性のことや医師の問題を考えれば、規模的には縮小されるということを覚悟しなければならないと思うが、金山病院との役割分担を発揮して、やっていけないかと思う。採算性ばかり追わずに、市民・県民の健康ということを考えてもらえればありがたい。県民の間で医療格差が生じないような役割ということが、県立病院には必要ではないかと考えている。
- ・ 下呂温泉病院の移転新築計画検討会（県、病院及び下呂市の職員で構成された会議）で、今の施設規模を縮小して建設するということで進んでいるが、市立金山病院との役割分担ということで、下呂温泉病院の役割を挙げている。高度急性期医療、救急医療、災害医療、へき地医療等の行政的医療、回復期リハビリテーション医療などをお願いしたい。
- ・ この地域には眼科の開業医がいないので、そういった医療を提供してもらえたらということはあると思っている。

(4) 県立病院の地方独立行政法人化について

- ・ 私達も公務員なので、一つの施策として、地方独立行政法人化ということも必要ではないかと思う。ただ、法人化して、県は出資もするし、手を引くというわけではないので良いが、法人ができたときから徐々に（病院の規模が）小さくなるというのではおかしいと思う。病院が小回りが利いて、医師や看護師が「この方が良い」というときに動きやすいようにするには、法人化の方が動きやすいのかなというふうに思うので、そのようにできれば、その方が良いかなということはある。
- ・ 休日診療所にあつては、昨年7月から開設している。休日在宅医制を実施していたが、病院へ直行する人が多いこともあり、また、医師会の先生の協力も得られたことから下呂市民会館に休日診療所開設できた。下呂温泉病院の負担の軽減が図られたと思う。

(5) その他県立病院について感じていること

(二村部長)

- ・ 現在、医師不足によって、本当に中核病院としての機能が確保されているのかということ、そして、地域住民の医療の要望に応えられていないのではないかと考える。そこから、病院経営が悪化して、悪循環になっているのではないかと考える。
- ・ そばに下呂看護専門学校があるが、下呂温泉病院へは看護師が4名ほどしか入っていないということなので、これも何か良い方向で、卒業生が下呂温泉病院に勤めれるように、何か考える必要があると思っている。これもやはり、医療施設とかスタッフの面で、敬遠されているのではないかと考える。

(県)

- ・ 「住民の医療の要望に応えられていない」というのは、具体的にはどのような問題があるのか。

(二村部長)

- ・ 住民の意見として、担当の医師がすぐ代わるとか、病院に対して対応してもらえるか不安、とそういうことがある。この先生が良いと思っていたら、すぐに代わっていつてしまうという話しも聞いている。大学病院からの派遣という中で。完治したこと等の良いことはすぐに忘れられるが、一つ悪い評判が立つと、長く続くということもある。実際に、市へも不満の声は聞こえてくる。患者のわがままという感じもあるが、「あの人は治ったが、あの人は治らなかった」というようなこともある。「もうちょっと早く手入れしてくれれば良かったのではないかと」。

(二村部長)

- ・ 既に、一般地方独立行政法人で行くということで決定しているのか。

(県)

- ・ 一般地方独立行政法人と、地方公営企業法の全部適用の二つを候補に検討している。職員組合は、公務員の身分を重視するので、全部適用であれば、公務員の身分のままで、柔軟な経営も実現できるのではないかと主張している。だが、それでは一番重要な「柔軟な人事」という点で縛られる（制約が残る）ので。

(二村部長)

- ・ 3病院を3つ一緒に法人化するのか。

(県)

- ・ 現在検討中。ただ、県としては、現在、法人化の目的である、現場に近いところで機動的に対応できるという点を重視すれば、3法人とするのが一番望ましいのではないかと考える。当然、岐阜総合医療センターと下呂温泉病院は連携を保ちながら。

(二村部長)

- ・ 医師の確保という点では、バラバラになるのはどうかなとは思。2つの方がある程度やりやすいのではないかと考える。